

慈雲

38号

2015/10

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

<http://www.zuirenji.net/>

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



願遣目連
尊者阿難
與我相見

【『観経』の言葉】

願わくは目連もくれんと尊者阿難そんじやあなんを遣つかわして、我がために相見あいみせしめたまうべし。

幽閉されている韋提希夫人は、本心ではお釈迦さまを求めながらも個人的な問題で呼び出すことはできないとして、仏弟子の目連と阿難を遣わして欲しいと頼むのです。

とくに夫人は阿難に来て欲しいのです。阿難を通して自分の悩みをお釈迦さまに伝えてもらい、またお釈迦さまのお言葉を自分に伝えて欲しいからです。

いずれにしても夫人の想定内の計算なのです。求めているのはお釈迦さまなのですが、なかなか飛び込めない。いよいよとなる足が止まるのです。求道における一大関門です。

今月は

獲信見敬大慶喜

即横超截五惡趣

の二句を学びます。

「信を獲れば見て敬い大きに慶喜せん、すなわち横に五惡趣を超截す。」と読みます。

私たちは、よき人に出会い本願の教えを聞いて、それが胸に響くとき、それを「信心を獲る」といいます。獲るといいますが、実は仏さまの方からの働きかけによって、かたくなな私の心が開かれ、教えの御声が飛び込んで来てくださるのです。つまり、信心を獲るとは、仏さまからの呼び声を聞くことができたということです。信心は私の心に開かれますが、その根っこは仏さまからの願いかけ—本願なのです。

そのような人は、「見敬」つまり何を見ても何を聞いてもそれを敬うことができます人です。

自分のことを振り返ってみても、自分からすすんでこの道を選んできた訳ではなく、不思議に導かれたとしか言いようがありません。きつかけとなった事はあります。中学生の頃、祖父が月参りに行くのによくついて行き、一緒にお経を読み、そのあとお茶をいただきながら何ということもなく祖父と御門徒の会話を聞いておりましたが、それが何より心地良かったのを覚えています。そのことを思い返すについても、あの頃からすでに導かれていて今に到っていることを思います。そうしますと、今の私があるのは御縁があつたすべてのもののおかげであると言えます。また、過去だけでなくただ今現在、身の回りの物事についても何ひとつ無駄なものはないと言えます。そのように受け取る事ができるのを「見て敬う」というのでしよう。

そのことを親鸞聖人は「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。」(歎異抄)と言われました。またある先生が、本山の境内に同朋会館を建てる際に当時の宗務総長か

ら「君のために建てるのだぞ」と言われたということ。ご門徒が宿泊するための建て物だと思っていたその方は驚いたことでしょう。すべての事が「私人」のためであるということ。そのように受け取れた人は心に大きな喜びを感じられるでしょう。そこを「大慶喜」といつておられるのです。

次の句の「即」は時を隔てず、すぐさまという字の意味です。「横」はよこざまという意味で、親鸞聖人は「如来の願力なり、他力をもうすなり」と言っておられます。「五惡趣」とは、私たちがみずからの煩惱によって作り出す世界で、私たちは常にその中をへめぐっています。地獄・餓鬼・畜生・人・天の五種です。「超截」は、それを如来の願力によって断ち切るのですが、五惡趣が何か別のものになるのではなく、むしろ五惡趣の生活ばかりだったと知らされるところにそれを超える道があるのです。そのとき、迷いの世界は自然に閉じられて一つの方向をもった生活、念仏生活が始まるのです。

【易行風】

瑞蓮寺では十一月八日に、東本願寺では十一月二十一日と二十八日に報恩講が勤められます。報恩講とは、宗祖親鸞聖人の御祥月命日に勤められる法要のことです。真宗門徒にとつて一年でもっとも大切で中心となる仏事とされています。

報恩講は親鸞聖人滅後、門弟たちが宗祖の御命日にお勤めをしたことが始まりです。当時は「報恩講」と称していませんでしたが、宗祖三十三回忌の際に第三代覚如上人が『報恩講私記しき』を作られ、法要の次第を調えられました。その後、覚如上人の子・存覚上人が『歎徳文』を作られ、法要の次第に加えられました。そして、第八代蓮如上人の時代に、各地の寺院・道場でも広くつとめられるようになりました。

報恩講の解説にはこのようなことが書かれています。みなさんはよくご存じだと思いますが、恥ずかしながら十年ほど前まで、私は報恩講そのものを知りませんでした。春・秋のお彼岸、夏のお盆、故人の葬儀・一周忌・三回忌・七回忌：とこれだけ仏教に関わってきたのに。

子供のころ、法事の度に故人を大切にしないさいと親から言われ手を合わせてきました。

これは凄く大切なことだと今も思っています。

その後、成長するに従い親戚の法事にも出席するようになり、その席で「五十回忌はお祝いだ」ということを聞きました。当時、小学校の高学年か中学生ぐらいでしたので、法事がなぜお祝いか不思議でなりません。そこで、なぜお祝いなのか尋ねると、「故人の五十回忌を勤められることは、子孫が繁栄し、五十年も永く家が繁栄しているからだ」と言われました。

それから、法事は、故人を大切にすることでは無く、家・親戚・人の輪（和）を繋ぐものと思うようになりました。

そう思い続けて数十年が経ち、そして現在は、自分を見つめ直す機会とも思っています。故人を偲び、故人との思い出のなかで、あの時の自分はこうだったな、ああだったなと。また、親戚と顔を会わせて話をすることでも、自分を見つめ直す機会にもなります。では、自分を見つめ直すとはどういうことでしょうか。それは自分を大切にすることなのでは。

そう考えると報恩講は、親鸞聖人の教えを見つめ直し、教えによって自分自身を大切にすることではないでしょうか。自分を大切にすると言うことは、心おだやかとなり、他人も大切にできるのではないでしょうか。

一年の計は元旦にありと言われ、自分自身を見つめ直す機会です。そう思っている方も多いのではないのでしょうか。

同じように報恩講も自分自身・教えを見つめ直し、新たな気持ちで聞法する機会ではないでしょうか。

お正月は普段の暮らしを見つめ直しはじめ、報恩講は教えを見つめ直すはじめ。

本当は、普段の暮らしと真宗の暮らし、分けず同じでなければならぬのです。それが、今はまだ分けてしまう自分です。それでも、報恩講を勤めるといふ行為が、それらのこと全てを包み込み、真実に向けて聞法し、歩む一歩ではないでしょうか。初めて報恩講を勤めたとき、私はこのような考えを持っていませんでした。しかし、このときから、私の聞法への道は決まっていたのかもしれない。

【報恩講のお知らせ】

十一月八日（日）

報恩講を勤修します

引き続き帰敬式ききょうしきを執行します

二時 お勤め

三時 帰敬式

内にて法話

住職

四時 お斎

【お磨きのお知らせ】

報恩講に先立ち、仏具のお磨きをします。皆様ふるって御参加下さい。

十一月五日（木）午前九時より

【帰敬式のご案内】

今年も報恩講（十一月八日）のお勤めの後で希望者による帰敬式を執り行います。これは「おかみそり」ともいい、私たちが法名を授かる儀式です。

法名と戒名は違い、真宗門徒は法名を授かります。

法名は亡くなった時に付ける名前と思われている方が多いようですが、実は生きていく間に授かるものなのです。

帰敬式で男性は「釋○○」、女性は「釋○○」という法名を授かります。そのこととは、お釋迦さまの名を一字戴き、仏・法・僧の三宝に帰依し「私はお釋迦さまの教えを聞き、人生を意義あるものとして生きていきます」という誓いの名告りなのでもあります。

ぜひこの機会に帰敬式を受けて法名を授かり、真宗門徒としての人生を歩んでいただきたいと思います。

詳しくは、瑞蓮寺までお尋ねください。

【同朋の会のお知らせ】

同朋の会を開催いたします。

・十一月二十三日（月・祝）

東本願寺で報恩講に参拝する

御本山の報恩講に参拝します。

集合時間 正午

集合場所 瑞蓮寺

又は

集合時間 午後零時半

集合場所 東本願寺 参拝接待所

・十一月五日（土） 午後二時より

瑞蓮寺にて写真コンテスト

「写真コンテスト」に応募された作品の展示及び表彰を行います。

時間 午後二時

場所 瑞蓮寺

「写真コンテスト」の応募方法は瑞蓮寺までお尋ね下さい。

【編集後記】

十月となり肌寒くなりましたが、皆様如何お過ごしでしょうか。

毎年、この時期はお彼岸と報恩講が続く『慈雲』を短期間で発行せねばならず、慌ただしく過ぎて行きます。しかし、読者の皆様には、楽しんで読んで頂きたいとの思いで、発行させて頂いております。これからもより良い紙面となりますよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

お便り、ご意見、イラスト、写真等、お待ちしております。

長塩浩史

瑞蓮寺のホームページができました。

<http://www.zuirenji.net/>